

【総長出張報告】 2019年7月8日～9日： ウズベキスタン共和国

7月8日（月）から9日（火）にかけて、「第3回日本ウズベキスタン学長会議」をウズベキスタンで開催し、本学が幹事校を務めました。今回は、ウズベキスタンから81機関、日本から17機関の参加があり、国や大学の枠を超えて、活発な意見交換が行なわれました。

名古屋大学は2005年にタシケント法科大学内に「日本法教育研究センター」を設立して以来、2010年にはタシケント市内に「名古屋大学ウズベキスタン事務所」を開所、2015年にはアジアサテライトキャンパス学院がウズベキスタンサテライトキャンパスを設立する等、ウズベキスタンを本学の重要なパートナー国のひとつと位置づけ、学生交流や人材育成支援等の学術交流を続けてきました。

昨年には、ウズベキスタン政府の要望に基づき、2001年にノーベル化学賞を受賞した野依良治特別教授を同国に派遣し、講演や若手研究者とのラウンドテーブル会議を行いました。また、本年5月には、名古屋市とタシケント市が「パートナー都市」協定締結に向けて確認書を締結するなど、両国の関係はより一層深化するものと期待されています。

このような状況下で、第3回目となる今回の「日本ウズベキスタン学長会議」には、中村裕之文部科学大臣政務官にご臨席いただき、ウズベキスタン政府からは、Aziz ABDUKHAKIMOV副首相が夕食会に参加されるなど、両国の学術交流促進に対する非常に強いご意志を示していただきました。

以下、皆さんに今回のウズベキスタン出張についてご報告します。



1. オープニングセッション、基調講演等について

今回の会議は、「グローバル時代に対応した若手人材の育成及び研究発展に向けた、日本

「ウズベキスタンの交流促進」をテーマにタシケント経済大学にて開会し、ウズベキスタン高等中等専門教育省 Inomjon MADJIDOV 大臣、中村文部科学大臣政務官、駐ウズベキスタン日本国大使館 須田 敦 臨時代理大使による挨拶に引き続き、幹事校である本学を代表し、私も挨拶しました。

開会挨拶に引き続き、基調講演として MADJIDOV 大臣から “Priorities of development of higher education in the Republic of Uzbekistan at the present stage” と題した講演を、文部科学省岩本健吾文部科学戦略官から “Internationalization of Japanese Higher Education” と題した講演をいただきました。

また、トリノ工科大学 Uktam SALOMOV 学長から、ウズベキスタンにおける海外分校設置の先行例として、トリノ工科大学タシケント校の紹介があり、日本の高等教育機関との連携可能性について提案がありました。



2. 分科会について

午後からは、2 グループに分かれてセッションが開催されました。“Academic Exchange for Science and Technology “に関する分科会では、主に科学技術発展に向けた学術交流をテーマとして、日本側は、名古屋大学、筑波大学、東海大学、ウズベキスタン側は、ウズベキスタン国立大学、タシケント化学技術大学から、これまでの学術交流の取り組みや提案等のプレゼンテーションがあり、参加者から、大学と産業界との連携促進や、両国における人材育成の取り組み等、幅広い質問が寄せられました。

“Development of Intercultural Dialogue”に関する分科会では、観光学、文化財保護、日本語教育等の人文・社会科学系における学术交流をテーマに、日本側は、和歌山大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、筑波大学、ウズベキスタン側は、タシケント経済大学、ウズベキスタン世界言語大学等から、各大学における取り組み等の紹介があり、今後の展望や交流の可能性について意見交換が行われました。

分科会での発表や意見交換を通じ、国際社会を取り巻く様々な問題に対応するためには、国境を越えた協力が必須であるという意識が高まっており、各大学がそれぞれの強みを活かして、日本・ウズベキスタン両国の連携を模索している状況が浮き彫りになりました。どちらの分科会においても活発な意見交換が交わされ、大変意義深い議論ができました。



3. クロージングセッションについて

クロージングセッションでは、各分科会でモデレータを務めた、水谷法美本学工学研究科長及びウズベキスタン世界言語大学 Ganisher RAKHIMOV 学長に分科会の総括をしていただいた後、今回の会議のホスト校であるタシケント経済大学 Bakhodir KHODIEV 学長からの挨拶により閉会しました。

4. 記念植樹について

第3回日本ウズベキスタン学長会議の日本側参加者を代表して、中村文部科学大臣政務

官及び私が今回の訪問を記念し、タシケント経済大学の敷地内で植樹を行いました。植樹した木の成長とともに、今後日本とウズベキスタン両国の人々が健やかに成長すること、また、両国の学术交流がますます発展していくことを心から願っております。



5. サマルカンド国立大学等訪問について

2日目は、タシケントから鉄道で2時間程離れたサマルカンドにあるサマルカンド国立大学を訪問し、海外の学術機関との学术交流を促進するため、大統領令により建設された「国際教育センター」を視察しました。同センターでは、海外の学術機関との共同教育プログラムの実施や文化紹介等のために使用できるスペースが用意されており、各階のフロア全体を各国に提供しています。現在、2階に中国、3階に韓国、4階にイスラエルが入居しており、日本のスペースは5階に用意され、9月に日本教育センターのオープニングセレモニーを予定しているとのことでした。

続いて、工学院大学及び創価大学とサマルカンド国立大学とが、今後の学术交流に向け、学术交流協定締結式を執り行いました。

サマルカンド国立大学と本学は2016年に大学間学术交流協定を締結しており、同大学から、今後2名の大学院生を派遣する予定があるとのことでしたが、名古屋大学からも、シルクロード研究、ロシア語・東洋語研究などの分野で、是非、学生や研究者を派遣願いたいとの要望が寄せられました。



